

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課水産しまね振興室長 三浦 順	電話番号	0852-22-5740
----------	-------------------	------	--------------

事務事業の名称	栽培漁業事業化総合推進事業		
目的	(1) 対象	マダイ・ヒラメを漁獲する漁業者	
	(2) 意図	マダイ・ヒラメの資源を増加させることにより漁業生産を増大させる。	
事業概要	栽培漁業の地域への定着化を図るため、当該地域の市町村・漁協・漁業者等による推進組織を基に、漁業者自らによる中間育成・放流・漁場管理・調査等を実施し、栽培漁業の事業化への促進を図る。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 放流マダイの混獲率	目標値		8.4	8.4	8.4	8.4	%
		取組目標値						
	式・定義 漁獲における鼻孔連結魚混獲率／放流種苗における鼻孔連結率 (H18～H27の平均値54.2%)	実績値	15.3	11.4				
		達成率	-	135.8	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	10,766	10,868
うち一般財源 (千円)	10,766	10,868

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成28年度から目標値を上げたが、平成28年度はその目標値を上回る混獲率を実現できている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- より効率的な中間育成放流を目指し、より安価な餌料を使用することでコスト削減を図った。
- 23、24年にシュードモナス病による中間育成でのヒラメの大量斃死があったが、対策を講じることにより25年以降は発生を抑えている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 中間育成施設が老朽化している。この状況が続けば修繕費等の経費が多大にかかることになる。
 - シュードモナス病のほかにも中間育成時に魚病が発生することがある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 中間育成施設は設置後、約20年が経過している。
 - 魚病が発生する原因を特定するのは困難である。
- ③原因を解消するための「課題」
- 施設設置の方針（集約化）を検討する。
 - 魚病発生の原因と考えられる問題について対策が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 事業主体である（公社）島根県水産振興協会を中心に関係市町村、漁協で、必要となる費用等を勘案の上、集約化に向けて検討する。
- 魚病については、発生時に原因究明と対処方法について検討するが、一方、防止対策として日々の飼育管理が重要であるので、えさや飼育温度等の協会の管理データを踏まえて、試験研究機関と連携して管理手法を検討していく。